

CASBEE神戸ver.1

株式会社カン研究所(仮称)神戸ポートアイランド本社研究所

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.1

■評価ソフト: CASBEE神戸ver.1 [Original/C

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								4.0
Q1 室内環境					0.33			3.8
1 音環境				4.2	0.15		-	4.2
1.1 騒音				4.0	0.40		-	
1	室内騒音レベル	目標値:騒音値45dB以下		4.0	1.00		-	
1.2 遮音				4.6	0.40		-	
1	開口部遮音性能	T-2		5.0	0.60		-	
2	界壁遮音性能	D-40		4.0	0.40		-	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	
4	界床遮音性能(重量衝撃源)						-	
1.3 吸音		天井:岩棉吸音板、床:タイルカーペット		4.0	0.20		-	
2 温熱環境				3.9	0.35		-	3.9
2.1 室温制御				4.0	0.50		-	
1	室温	24℃を維持できる空調容量		5.0	0.38		-	
3	外皮性能	窓:複層ガラス+ロールスクリーン、外壁断熱材、屋根断熱工法		4.0	0.25		-	
4	ゾーン別制御性			3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御		55%を維持できる空調容量		5.0	0.20		-	
2.3 空調方式				3.0	0.30		-	
3 光・視環境				2.8	0.25		-	2.8
3.1 昼光利用				1.8	0.30		-	
1	昼光率			1.0	0.60		-	
2	方位別開口						-	
3	昼光利用設備			3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策				2.0	0.30		-	
2	昼光制御			2.0	1.00		-	
3.3 照度				3.0	0.15		-	
3.4 照明制御		研究員室は一作業単位で照明制御かつ人感センサー制御		5.0	0.25		-	
4 空気質環境				4.7	0.25		-	4.7
4.1 発生源対策				5.0	0.50		-	
1	化学汚染物質	床、壁、天井はF☆☆☆☆、天井裏はF☆☆☆、接着剤はVOC対策品		5.0	1.00		-	
4.2 換気				4.3	0.30		-	
1	換気量	一人当たり30m ³ /h以上		4.0	0.33		-	
2	自然換気性能	自然換気有効開口面積が100cm ² /m ² 以上		5.0	0.33		-	
3	取り入れ外気への配慮	ガラリの離隔距離あり		4.0	0.33		-	
4.3 運用管理				4.5	0.20		-	
1	CO ₂ の監視	手動による計測前提で、引き渡し時にマニュアル整備を計画		4.0	0.50		-	
2	喫煙の制御	全館禁煙		5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能				-	0.30		-	4.5
1 機能性				4.4	0.40		-	4.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40		-	
1	広さ・収納性	一人あたりの執務スペース9.7m ²		4.0	0.33		-	
2	高度情報通信設備対応	OAフロアの採用、コンセント容量40VA/m ² 以上		4.0	0.33		-	
3	バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たす		4.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30		-	
1	広さ感・景観	研究員室の天井高さ3.0m、十分な窓の設置		5.0	0.33		-	
2	リフレッシュスペース	リフレッシュルーム+自販機置場を設置		5.0	0.33		-	
3	内装計画	評価項目をすべて実施		5.0	0.33		-	
1.3 維持管理				4.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計	汚れにくい材料、納まりを採用		4.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	清掃員控室、管理倉庫、各階にリサイクル室、清掃用流し、4階に洗濯室		5.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				4.5	0.31		-	4.5
2.1 耐震・免震				5.0	0.48		-	
1	耐震性	免震構造の採用		5.0	0.80		-	
2	免震・制振性能	免震構造の採用		5.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				4.0	0.33		-	
1	躯体材料の耐用年数	PC版(鉄筋コンクリート)の耐用年数65年(外部仕上表・耐用年数一覧表)		4.0	0.23		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数20年以上(内部仕上表・耐用年数一覧表)		5.0	0.09		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外ダクトはガルバリウム鋼板仕様		5.0	0.08		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:塩ビライニング鋼管 排水:塩ビ管 E不使用		5.0	0.15		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	主要設備は、受変電、エアハンドリングユニット、ファン		4.0	0.23		-	

2.4 信頼性			4.2	0.19		-	
1	空調・換気設備	熱源に2重化	5.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備	節水器具の採用	4.0	0.20		-	
3	電気設備	非常発電機の設置	5.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	通信機器の多様化、精密機器の浸水対策を行う。	4.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			4.7	0.29		-	4.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31		-	
1	階高のゆとり	階高5.0m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.12	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		5000N/m ²	5.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性			4.7	0.38		-	
1	空調配管の更新性	ISSIによる	5.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	ISSIによる	5.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性	ISSIによる	5.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性	ISSIによる	5.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性	ISSIによる	5.0	0.22		-	
6	バックアップスペース	予備スペースの確保	4.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.37		-	3.8
1 生物環境の保全と創出			4.0	0.30		-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		立地特性に応じた樹種の選定、外構緑化指数52%、建物緑化指数5%	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		排熱の屋上集約化	4.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40		-	4.3
1 建物の熱負荷抑制			3.4	0.10		-	3.4
2 自然エネルギー利用			4.0	0.26		-	4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用		アトリウム自然換気	4.0	0.50		-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		太陽光パネル	4.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化			5.0	0.39		-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=46.2%	5.0				
集合住宅の評価							
4 効率的運用			4.0	0.26		-	4.0
4.1 モニタリング		中央監視による	4.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		引渡し時に、運用、維持、保全の基本方針を作成予定	4.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	4.2
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水		節水器具	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.63		-	4.3
2.1 材料使用量の削減		方杖プレースの採用による鉄骨梁断面の合理化	4.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		電炉鋼材	5.0	0.20		-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		タイルカーペット、ビニル床シート、階段滑り止め	5.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		軽鉄+仕上を主とし、設備は軽鉄間仕切内、OAフロア、可動間仕切採用	5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.22		-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		床、壁、天井はF☆☆☆☆、天井裏はF☆☆☆☆、接着剤はVOC対策品	5.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68		-	
1 消火剤		N2消火	4.0	0.33		-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0かつGWPが低い発泡剤を使用	5.0	0.33		-	
3 冷媒			3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.5
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33		-	3.8
2 地域環境への配慮			3.6	0.33		-	3.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		屋外機はショートカットをしない配置としている	4.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.6	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			-	-		-	
2 汚水処理負荷抑制		中和装置による汚水負荷低減	4.0	0.33		-	
3 交通負荷抑制		駐車場を適切に確保。駐車場出入口は2ヵ所とし極力離して配置。	4.0	0.33		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音			3.0	1.00		-	
2 振動			-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-		-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインの項目の過半を満たしている	5.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	